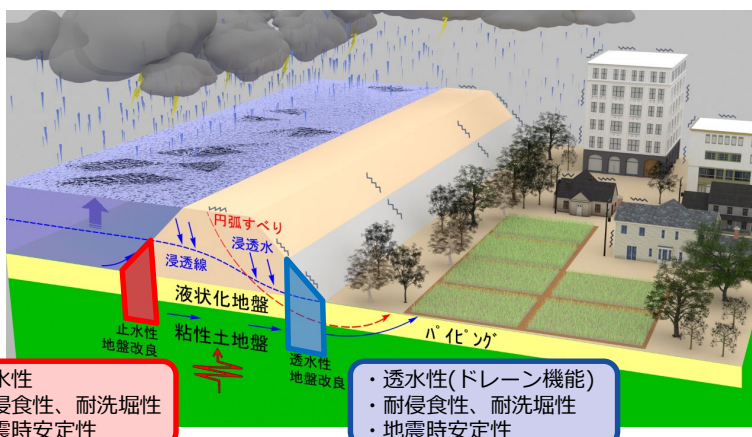


豪雨・地震の複合災害に備えた 「盛土強靱化技術」

止水性および透水性地盤改良による盛土の新たな補強工法

近年、河川堤防やため池において豪雨や地震などの自然災害による被害が増えており、豪雨と地震の複合的な災害に対する合理的な対策が求められています。安藤ハザマは、**止水性および透水性地盤改良体を組み合わせた盛土の新たな補強工法**を提案します。



新たな補強工法のイメージ図

【改良体の特徴および効果】

止水性地盤改良体：現地攪拌方式による地盤改良体

豪雨時：堤体内への河川水の浸入や堤体法尻部の侵食を防ぎます。

地震時：液状化などによる基礎地盤および堤体の変形を抑制します。

透水性地盤改良体：優れた透水性とせん断強度を有する地盤改良体

豪雨時：堤体内の浸透水を効率的に排水します。

越流水やパイピングによる法尻部の侵食を防ぎます。

地震時：液状化などによる基礎地盤および堤体の変形を抑制します。

【施工方法】

止水性地盤改良体：攪拌性能向上のために上部高圧吐出機能を新設したWILL-m工法により大幅な工事費低減、工期短縮、環境負荷低減を実現しました。

透水性地盤改良体：止水性地盤改良体と同様の施工機械を用いたコンパクトな施工システムを開発しています。

2種類の地盤改良体を組み合わせた補強工法で

豪雨・地震による盛土の不安定化を抑制します。

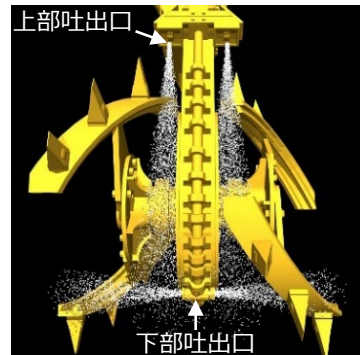


透水性地盤改良体

透水係数 $k=1.0 \times 10^{-3} \text{m/sec}$



WILL-m工法 施工機械



攪拌翼 (WILL-m工法)

お問い合わせ：
技術研究所 土木研究部
(電話 029-858-8813)